

# ZOCALO 2020 4 ▶ 5

ZOCALO=ソカロは  
メキシコの都市の広  
場を意味するスペイ  
ン語。埼玉県立近代  
美術館はアートを通  
じて交流する市民の  
広場をめざしています。

## Makino Takashi

映像作家。2004年より映像作品の発表を開始。自然現象や風景など既存の事物をフィルムやビデオなどのフォーマットで撮影し、編集段階でさまざまな操作を行う。複雑な事後加工や重層化の操作を経て制作される独特の有機的な抽象映像は、国際的に高く評価されている。近年は上映だけでなく、インスタレーションやライブ演奏と合わせてのスクリーニングなど、領域横断的な制作・発表を行っている。

New

## Yokota Daisuke

撮影後のデータ加工、出力や複写の反復、特殊な現像方法などを複雑に駆使した写真で、記憶と現在、イメージと現実の関係性を問う制作を行う。Foam 写真美術館（オランダ）での2度の個展開催（2014年、2017年）をはじめ国内外での展示・発表、多数の写真集の制作のみならず、写真家の北川浩司、宇田川直寛と結成した「Spew」によるZINEの制作や音楽パフォーマンスなど、幅広い活動を展開している。

Photographic

## Nerhol

グラフィックデザイナー・田中義久と彫刻家・飯田竜太によるアーティストデュオ。2007年よりNerholとして活動を開始。ある条件下で撮影された数百枚の写真を積層し、彫り込む手法による制作を継続している。人物をはじめ街路樹や動物、流れる水、あるいはネット空間にアップされた画像データや記録映像など多様なモチーフを選びながら、それらが孕む時間軸さえ歪ませるような作品を制作。そこでは一貫して、私たちが日常生活を過ごすときには見落とされがちで有機物が孕む多層的な存在態を解き明かすことが試みられている。

Objects

## Takizawa Hiroshi

大学で心理学を専攻した後、写真を用いた作品の発表を開始。作品の被写体の多くは、膨大な年月をかけて経年変化してきた石や岩、コンクリートなどのテクスチャーで、そのプリントを重ねる、切断する、くしゃくしゃに折り畳む、あるいはスキャンし出力した写真を再撮影するなどの多様な手つきによって、被写体自体の原料属性から離れ、重厚で物質的なイメージを創出する制作を展開している。

写真と映像の物質性

## Sako Teppei

瞬間を切り取るスナップ写真の技法を応用した映像作品や、複数の瞬間を一枚の写真に積み込むスナップ写真のシリーズにおいて、「決定的瞬間」から被写体と鑑賞者を解放することを試みている。何の変哲もない光景をとらえたスナップ写真を時間的に引き延ばしたかのような映像作品で、2015年の「Canon 写真新世紀」グランプリを受賞。加納俊輔、上田良とのアーティストユニット「THE COPY TRAVELERS」としての活動も行う。

4/4-5/17 2020